

委員同士、協力しあって活動中！

# 「美郷町男女共同参画住民懇話会」

美郷町男女共同参画住民懇話会は、町の委嘱を受けた12名の委員で構成されています。美郷町における男女共同参画社会の実現のため、町の方針や推進事業について検討を重ねています。

また、平成21年度からは啓発活動の一環として「出前朗読劇」にも取り組んでいます。なかなか理解することが難しいと言われている「男女共同参画」について、町民の皆さんにわかりやすくお伝えしたいという思いから始まった「出前朗読劇」。懇話会委員が様々なキャラクターに扮してステージに登場し、「男女共同参画」をテーマにした朗読劇をあちこちで披露しています。登場人物が方言で面白おかしく語り合う朗読劇は、親しみやすく大変好評で、多くの方から「劇を見て互いに思いやる気持ちの大切さを改めて感じた。大変参考になった」という感想をいただいています。

地域や学校などから申し込みがあれば個性あふれるメンバーが出向き、朗読劇を披露しますので、町総務課までご連絡ください。  
☎0187-84-1111

## 『平等ってなに？』

美郷町男女共同参画住民懇話会 座長 中村しげ子

以前、千畑中学校3年生の社会科の授業で『男女共同参画』を取り上げていただいたときに、差別や不平等に関して男子生徒から「体力作りのためのマラソンで、女子の走る距離が男子より短いのは差別ではないのか」という意見が出されました。（へえ、不満なんだ。そういえば、以前参加したセミナーで確か似たようなことが…。）

『医学から見る男女共同参画』という分科会の中で、ある年配の女性が質問しました。「孫の徒競走のとき、男児にハンディキャップをつけて女兒が短く走るの是不平等ではないんですか」。そのとき、医師で大学教授の先生はこう答えました。「短く走って平等です」。

男女の脳の違い、染色体の影響、男女以外の性など、ほか様々、人の根源を知る驚愕きょうわくの時間でした。

真の平等とは何か。住民懇話会は「いかに自分らしく幸せに生きるか」を正しく優しく、人々に伝えていかなければならないと思います。

■波平役が中村座長



キャッチフレーズ  
最優秀賞受賞者  
インタビュー

平成23年6月に募集した「男女共同参画キャッチフレーズ」には、応募総数594点もの作品が寄せられました。これらの中から最優秀賞に輝いた菊地将太さん（六郷高校2年）に美郷町男女共同参画住民懇話会の中村しげ子座長がインタビューしました。

中村しげ子（以下、中村）…初めま

して。今日はよろしくお願ひします。さて、菊地さんは「男女共同参画」について以前から知っていましたか？

菊地将太（以下、菊地）…いいえ。

授業でも特に取り上げられなかったので、あまりよく知りませんでした。

中村…今回の作品はどのような気持ちで作りましたか？

菊地…自分も進路を考える時期にきていて、「仕事」という観点から考えてみました。自分の中では、何となくですが、働いている人は「男の人」という先入観



■ 菊地将太さん

がありました。しかし、職場には女性もいるわけですから、新入社員女性の立場で考えてみたとき、男性も女性も互いに信頼し合わなければ仕事も人間関係もうまくいかないんじゃないか、と感じました。そこで、「認め合い、そこから始まる」というフレーズが自然に浮かんできました。

中村…自然に浮かんだというのはすばらしいですね。ところで、学校の名簿は男女別になっていませんか？

菊地…男女関係なく、あいうえお順になっています。

中村…そうですね。では、学校生活の中で何か不便だとか、窮屈だなと感じることはありますか？

菊地…特に感じたことはありません。

中村…そうなんですね。自分らしく生活できる環境が整っているというところは、すばらしいことですね。おうちでは手伝いはしていますか？

菊地…親が忙しいときなどは小学生の二人の妹たちの面倒をみます。



■ (写真左から) 菊地さん、中村座長

中村…いいお兄ちゃんですね。そういう普段の行動が将来の「イクメン」につながっていくと思います。将来について、高校2年生の今、どのように考えていますか？

菊地…なかなか難しいことだとは思いますが、できれば秋田で仕事に就いて、ふるさと秋田のためにがんばっていきたいと思っています。

中村…自分らしさを大切に、将来をしつかりと見つめる菊地君のような若者がこれからの秋田をもっともっと元気にしてくれることを期待しています。菊地君、お忙しいところありがとうございます。

菊地さんの作品「認め合い、そこから始まる男女共同参画社会」は、「男女共同参画キャッチフレーズ」として啓発活動に活用されています。

